

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 住み慣れた地域に住み続けたいという願いが実現できるように、職員全員で実践しています。いつでも確認出来るように、見やすい場所に掲げてあります。 | ホーム独自の理念を掲げている。職員は会議や日頃のケアの場面などで理念について実践されるかどうかふり返り、お互いの意思統一を図っている。理念にそぐわない対応があった場合には直接管理者が話しをしたり、内容によっては皆で話し合いをしようとしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 隣組で回覧を回したり、地域の店を利用したり、お散歩で地域の方と出会ったり、日常的に交流があります。 | 自治会費を払い隣組の回覧板も回ってくる。職員が地区の公民館の掃除に行ったり、入居者もどんど焼きなどの地区の行事に参加している。保育園、小学校の運動会にもお誘いがかかり出かけている。大学の実習生が年間を通して来訪し、同じ地域の障害者グループホームからも洗濯ものたみの手伝いの方が来ている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 当法人で行っている運営推進会議を活かした地域作りのセミナー等を発信したり、運営推進会議の場にて情報交換を行っています | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議を通じ、グループホームのサービス状況を報告しています。それについて地域の方やご家族からご意見を伺い、サービスの向上に努めています。 | 家族、近所の方、自治会長、民生委員、福祉委員、市職員、地域包括支援センター職員が出席し、2ヶ月ごとに行われている。会議はホームの居間で行われるので近くの居室の入居者も自然に参加する形となっている。その時々で消防署員が参加したり、家族交流の機会として一緒に食事をしての会議もある。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議に参加いただき、グループホームの実情をお伝えしています。市町村担当者と話し合いを通じ、相互理解を深めています。 | 地区のいきいきサロンの講師として管理者が出向いている。市派遣の介護相談員も3ヶ月に1度来訪している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 夜間防犯上の施錠以外は施錠をしません。予測のケアができるよう、日々情報交換を行い、安全に暮らしていただけるようになっています。 | 毎月1度行われる職員全員参加の法人の会議で身体拘束に関する項目も含まれた法人宣言を復唱しており、職員間で意識づけしている。外出傾向の入居者には一緒に歩くようにしたり、前もってゴミ出しや、買い物に行くようにし対応している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待について勉強会を行い、虐待について理解と確認を行っています。法人全体として取り組んでいます。アザレアンさなだの宣言文読み合わせを行い、日頃のケアについて振り返る機会を設けています | | |

曲尾グループホーム

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を利用している方がいないため、理解がまだ出来ていません。今後ご利用の予定もあり、理解を深めるための研修等必要と考えています。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用体験をしていただいたり、契約の説明は時間をかけて行っています。利用料金、リスク、重度化、看取りについて対応方針、医療連携については詳しく説明し、同意を得るようにしています。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族が、来所時または電話などでもご意見ご要望が言いやすい雰囲気作りに努めています。また、介護相談員の訪問、運営推進会議等を活用し外部者へ表せる機会を設けています。 | 家族の来訪は週1度、月1度、半年に1度、年に1度と事情により異なっている。ふだんは電話やお便りで連絡をとるようにしている。家族会は真田町にある3つのグループホーム合同で年3回行われている。運営推進会議を兼ねて行うホーム独自の家族会も検討している。お便りも写真入りで年4回発行され、入居者の様子を家族に伝え、家族との意思疎通も図っている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者は個々にあるいは会議や日々の申し送り等で職員の意見・提案を聞くように努力しています。日々の中ですぐに取り入れられることは取り込み、職員のモチベーションアップやスキルアップに繋げています。 | ホーム独自の月1回のカンファレンスで入居者の困っていること、工夫することなどを話し合っている。日々の申し送りを含め、職員が気がついた時に「試しにやってみましょう」、「良ければそうしましょう」と他のスタッフや管理者とも気軽に相談している。管理者との個別の面談も半年に1度行われており、職員の意見や要望も運営に活かされている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は職員との面接を行い、職員個々の努力・実績・悩み等把握するように努めています。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人全体の会議があり、年間を通して研修計画があります。また、グループホームでも毎月会議があり、そこで研修を開催し、職員が学ぶ機会を多く取るように努めています | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 近隣のグループホームとの連絡会があり、相互に訪問してともにサービスの質の向上ができるよう取り組んでいます | | |

曲尾グループホーム

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | サービス利用の相談時、必ずご本人、ご家族にあって、生活状況や心身の状態、また、これからの暮らしへの希望を伺い、安心してお使いいただけるよう努めています | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | このサービスを利用するに至った経緯等、ご家族の立場にたち、十分に伺い、気持ちを受け止め、ご家族との信頼関係が築けるよう努力しています | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | サービスの導入時には必要に応じて「体験入居」をしていただいています。利用する状況になく、他のサービスのニーズがある時は、他事業所と連携し、必要なサービスを提供できるようにしています | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ひとつ屋根の下で、お互いを思いやり、介護する側される側でなく、共に暮らす、家族のような関係でありたいと考え、信頼、愛情を深めています | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 折にふれお便りや電話連絡などでお互いの状況などを話したり、お聞きし、ご家族とのつながりを大切にしています | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご家族、今まで生活された地域、自宅、また今まで馴染みの関係にあった方々と会ったり、出かけたり、また、気軽に来所していただけるようにしています | 遠い親戚や近所の方が野菜を届けながら訪れたり、民生委員が長寿の祝いで来訪する。お盆も日帰りで帰るが家族の認識が出来なくなった入居者はホームに帰ると安堵の笑顔を見せるという。散歩途中に顔馴染みの人と会い、立ち話をするこもある。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日々、関係が変化しますが、ぶつかり合って関係が壊れることのないよう、間に入ったり、お一人お一人の今の気持ちを大切にしながら、一緒に過ごせるよう努めています | | |

曲尾グループホーム

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居されると疎遠になってしまいがちです。お亡くなりになった方の葬儀やお盆にお参りさせていただいています。必要時にはご相談に応じ、関係が継続できるようにと考えています | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 御本人の言葉や生活歴、ご家族、親戚、地域の方、馴染みに方からの様々な情報から、ご本人の思い、願いを汲み取るよう努めています。 | 入居者それぞれが色々な形で思いを表出してくれる。家族、親戚、従兄弟、地域の人々から「こんな人だったよ」と様々な情報をいただき、また色々な場面での助力もいただき、本人の思いを汲み取っている。入居者と1対1になった時、それぞれの職員の入居者への対応が異ならないようにと総括し、思いや意向の把握に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 御本人の言葉や生活歴、ご家族、親戚、地域の方、馴染みに方からの様々な情報から、ご本人の思い、願いを汲み取るよう努めています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 出来る事はだんだんに少なくなりますが、ご本人が自分でできたと思えるように、さりげなくサポートし、気持ちよく一日が過ごせるように努めています。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 御本人の意向を大切にし、より良く暮らすための課題とその解決の方法を関係者、家族と話し、介護計画を作成できるように努めています。 | 職員が本人や家族の思いを聞き、カンファレンスで検討し、管理者により暫定の計画が立てられ計画作成担当者によって完成する。家族には来訪時や郵送で確認していただいている。見直しは3ヶ月に1度行っているが状況が変ればその都度変更をかけている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子、食事量水分量、排泄状態が1週間ごとたいちょう、心身の状態が把握できるよう、記録用紙を改善し、ケアの実践に活かせるよう努めています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 訪問看護ステーションとの契約により医療的なニーズに24時間れんけいがとれるようになっていきます。また、その時々あるニーズにも、外部のサービスも取り入れながら対応しています。 | | |

曲尾グループホーム

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | いきつけの床屋さん、お店への外出、また地域の小学校・保育園等の行事に参加したりしています。地域からのボランティアの方が定期的に来初され、交流しています。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居後も主治医の変更はありません。ご本人、ご家族の希望に沿って、受診の必要時には対応しています。入院、退院等についてはご家族にご協力いただいています。 | 地元地域からの入居者が殆どであるので、入居前からのかかりつけ医がホームの協力医でもある。協力医が3週間に1度往診に来ている。法人の訪問看護ステーションと契約しており、月2回健康チェックに来訪したり24時間の連携体制が築かれている。訪問歯科により居間にて治療が行われている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護ステーションと連携し、日頃の健康管理の相談や緊急時には夜間帯であっても相談・訪問ができる体制になっています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時にはご利用者が安心していただけるよう出来るだけ多く見舞うようにしています。入院中もご家族や病院との情報交換を行い、早期退院ができるように協働しています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化に伴う介護の指針について説明し、同意をいただいています。折にふれ、終末期の意向をご本人・ご家族から伺い、事業所の方針もお伝えしながら、意向に沿った支援を行うようにと考えています。 | 契約時に重度化や終末期についての方針や出来る対応について家族に説明している。入居者の状態に変化が生じた時点で家族に報告し、医師、看護師、職員で面談を繰り返している。職員は入居者の好みを把握しているので直前まで「何か飲めるものは…。食べられる物は…。」と支援しており家族に感謝されている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 全職員が消防署の協力を得て、法人の全体会議にて救急法の講習を受講しています。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 職員全体会議にて災害時の対応について学ぶとともに、地域の方にも参加していただいている避難訓練を実施しています。運営推進会議にては災害時の事が話題に上がり、緊急時の協力体制をとっていただいています | 管理者は訓練に際して消防計画書を提出し、年2回消防署と地域住民の協力で避難訓練、消火器の使い方訓練等が行われている。うち1回は夜間想定の避難訓練も行われる。職員間の通報訓練の結果から連絡網が確実に機能する方策を検討している。法人として防災協定を地区と締結している。 | |

曲尾グループホーム

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | お一人お一人の人格を大切に、丁寧な言葉かけを心掛けています。 | 入居者の雰囲気から苗字や名前に「さん」をつけて呼んでいる。法人の年間研修計画に沿って入居者の尊厳や個人情報の取り扱い方についても取り組んでいる。馴れ合いからの言動や尊厳を犯したケアについてはその場で職員同士、お互いに注意しあっている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 御本人の言葉、表情、心身の状態からご本人の思いを汲み取り受容し、ご本人主体で決定・洗濯ができるように努めています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 時間で決められた一日のスケジュールはなく、お一人お一人のペースで一日一日をお過ごしいただいています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 御本人の希望に沿って馴染みの床屋や美容院に行けるように支援しています。また、お一人お一人の嗜好に合わせたおしゃれや身だしなみができるようにしています。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の買い物、献立、準備から一緒に参加していただけるよう雰囲気作りをしています。 | 毎日の献立は入居者の希望と冷蔵庫の中味で決まる。誕生日には入居者の好きな献立となる。介助の必要な入居者には時にはおにぎりやパン食にして自分で食べられるよう支援し、食事時間をゆっくりとるようにしている。献立は栄養研修会で栄養士にアドバイスを受けている。皮むきなどのお手伝いには本人がやりたい時に参加していただいている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量・水分量はその方の心身の状態にも影響してくる大切なことと考え、記録を取り、摂取量の変化時には、食べやすさ、嗜好、その他の要因を検討し、その方にあった栄養摂取ができるように努めています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 一人一人にあった口腔ケア方法を模索し、できるだけ、ご本人の力できれいにさせていただいています。できない方にも口腔内がきれいになれるよう、水分を多く摂取する等努めています。 | | |

曲尾グループホーム

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個別記録により、24時間の排泄状況を記録しています。これにより、お一人お一人にあった排泄介助を行っています。 | 昼間は排泄チェック表を参考にし布パンツにパット、リハビリパンツで対応し、トイレでの排泄支援を心がけている。夜間はポータブルトイレや尿器を使用したり、良眠することを主に置き紙オムツを使っている方もいる。自尊心を大切にさりげない支援に心がけている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 十分な水分量と適切な食事と運動が便秘予防には大切と考えています。一日の中でもできるだけ体を動かしたり、十分に水分が取れるよう心掛けています。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 御本人の希望に合わせて入浴ができるように努めています。入浴がお好きでない方にも、声掛けや時間や生活習慣を考慮してお誘いしています。 | 希望があれば何時でも入浴が出来る。通常は2日おきか3日おきとなっている。入浴を拒む方には時間をずらしたり、職員を変えて支援している。季節のゆず湯を楽しんだり、入居者の希望により入浴剤も使用している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | その人にあった休息が必要時に気持ちよく出来るように支援しています。一人で休めない方は、ほかのご利用者と一緒にソファで休んだり、日中でも横になりたい方は静かな環境で休めるようにしています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の処方内容は1冊のファイルに綴り、いつでも確認ができるようになっています。内服については個別記録に必ず記入し、飲み忘れの無いようにしています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 負担の無い範囲で、また楽しみながら出来ることを行っています。それも、その日によってはやりたくない場合には、見極め、楽しく継続できることを大切にしています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 日常の買い物、ゴミ出しなどの外出のほか、お見舞いなどにも遠方であっても、ご家族や地域の方と協力し出かけられるよう支援しています。 | 日常の散歩も入居者の意向に沿って行っている。毎日のゴミだしや買い物にも交代で出かけている。行事外出として花見、ハスの花、藤の花、アジサイ等の見物にも出掛けている。今年の秋は法人の4グループホーム合同でぶどう狩りを企画し全員で楽しんだ。地域の小学校の運動会や音楽会にも招待を受け出かけている。 | |

曲尾グループホーム

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お財布を持てる方には、ご本人管理でお持ちいただいています。必要時にはご自分で支払いをしていただいています。お財布の管理を委託されている方でも、ご本人の希望時に使えるようにしています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | お電話の希望があれば、直接お電話ができるようにしています。耳の遠い方でも希望があれば先方へご連絡をするようにしています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 古民家を改修した家ですので、ご利用者にとってわかりやすい馴染みの設えの環境であると思います。季節の花を飾ったり、寒い時期にはこたつ、夏には扇風機があり、窓も広く、外の景色が季節の移ろいを感じさせてくれます。 | 築100年以上の民家の居間は帯戸と欄間で仕切られ、仏壇が置かれ、過去に看取られた方の写真が収められ入居者によっては毎日線香を上げお参りされている方もいる。庭には赤い石造りのポストがあり旧家の趣きを残している。炬燵で過ごされる入居者が冬の暖かな日射しを浴びて、80年前にタイムスリップしたような快い気分になった。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 過ごす場所は自由ですが、それぞれが居心地の良い空間になるようご利用者にお聞きしながら整えています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご自分の部屋では、使い慣れたものを使い、安心できる環境であるよう、ご家族とも協力しています。 | 田の字型に仕切られた居室は名札も特になく、10～12畳と広く、1～2人で生活し自分の居室を間違えることもないという。筆筒、鏡台、人形、壁には家族や自分の写真を飾り、入居者によっては使い慣れたベットを持ち込んでおり、安堵した毎日を送られていることが感じられた。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | その方にとってわかるもの、わかりやすいものを取り入れ、ご本人の認識しやすい環境作りをすることによって、一人で出来ることがあります。その方の目線で環境を整えるように心掛けています。 | | |